

大学生と薬物乱用

大麻の検査者は過去最多

若者や学生が大麻や覚醒剤などの薬物乱用する事件がたびたび発覚している。本紙は、薬物乱用の撲滅に向けた取り組みの現状を、文科省や警察、薬物依存者支援施設「ダルク」などに取材し、(木村誠人、佐藤 隆彦、坂田 大、藤巻 本、辻 泰典、4 冊) をまとめた。

薬物乱用の現状
薬物乱用の検査数は、昨年(18年)は過去最多の30歳未満の検査者数は1万3868人、覚醒剤と大麻が大半を占めた。大麻は過去最多の1万4000人以上、5年連続で検査者が増加した。覚醒剤は過去最多の1万4000人以上、5年連続で検査者が増加した。覚醒剤は過去最多の1万4000人以上、5年連続で検査者が増加した。

大麻による検査者数の推移
(警察庁の資料より作成)
検査者数(人)の推移。2014年から2018年までのデータを示す。2018年は過去最多の約14,000人に達している。

大麻入り食品 見分けつかず
大麻入り食品の増加に伴い、見分けがつかず、健康被害のリスクが高まっている。消費者庁は、大麻成分の含有量を厳格に規制する方針を示している。

政府の取り組み
文科省は、大麻取締法を改正し、大麻の取締りを厳格化する。また、警察は、大麻の取締りを強化し、大麻の取締りを厳格化する。



「大麻は安全」誤解が流布
「大麻は安全」という誤解が流布している。大麻は、精神作用を有する薬物であり、乱用すると健康被害を及ぼす可能性がある。政府は、大麻の取締りを厳格化する方針を示している。

筑波大の取り組み
筑波大学は、大麻の取締りを厳格化する。また、警察は、大麻の取締りを強化し、大麻の取締りを厳格化する。

薬物のない学生生活のために

薬物のない学生生活のために、様々な取り組みが行われている。例えば、薬物のない学生生活のために、様々な取り組みが行われている。

パンフレット「薬物のない学生生活のために」
= 木村誠撮影

薬物の危険性
薬物の乱用は、健康被害を及ぼす可能性がある。政府は、大麻の取締りを厳格化する方針を示している。



大麻製品摘発事例
大麻製品が摘発された事例を示している。政府は、大麻の取締りを厳格化する方針を示している。

特集

薬物依存者支援施設「ダルク」代表に聞く



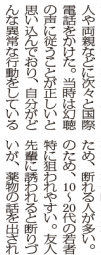
全国には約100の薬物依存者支援施設「ダルク」がある。代表の十枝 健一氏に、薬物依存者の現状や支援の取り組みについて聞いた。

薬物依存者の現状
薬物依存者は、約100万人に達している。政府は、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。

支援の取り組み
ダルクは、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。例えば、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。

知人の勧めはつきり拒否して

知人の勧めはつきり拒否して、薬物依存から回復した事例を紹介している。政府は、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。



茨城ダルク
茨城ダルクは、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。例えば、薬物依存者の支援を強化し、薬物依存者の支援を強化する。

特集

大学生と薬物乱用